

令和 5 年 6 月 24 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13808

研究課題名（和文）持続可能な開発目標におけるソーシャル・ビジネス・エコシステムの潜在性

研究課題名（英文）Potentiality of Social Business Ecosystem Toward Sustainable Development Goals

研究代表者

中村 寛樹（Nakamura, Hiroki）

東京大学・社会科学研究所・准教授

研究者番号：20645262

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ソーシャルビジネス（SB）に着目し、特にSBが必ずしも盛んとは言えない日本を対象に、ソーシャル・ビジネス・エコシステムの潜在性について考察した。個人を、SB実施者・支援者、さらにはそれらの潜在的SB実施者・支援者（潜在者）に類型化し、SDGsに関連する変数などを入れてSB支援者（もしくは潜在者）を規定する要因（変数）を明らかにした。また、それらの日本における地域的特性も考慮に入れた。加えて、それらの知見をもとに、いかにSB支援者と実施者を有機的に結びつけるか、そのためにはどのような仕組みづくりや評価の在り方が必要かについて、理論的・実践的検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来のソーシャル・ビジネス（SB）研究は、実践事例や解決すべき社会課題に焦点があてられ、地域における実践者や支援者との有機的なつながりであるソーシャル・ビジネス・エコシステム（SBE）としての分析は十分ではなかった。そこで、本研究を実施し、次のことが示された。まず、SBが盛んでない日本では、SB無関心層が多く、そこに働きかける仕組みが有効である。また、SB実施経験者が、SB支援者になる傾向にある。さらに、SBEは、潜在的SB層へSB実施者・経験者の伴走支援が可能となる中規模コミュニティとして機能させることが有効である。これらにより、いかにSBEづくりを行っていくか明確になり、その意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：Compared to the rest of the world, Japan does not rank high in terms of social entrepreneurial activity and individual social entrepreneurship. This study has found a positive impact from potential social entrepreneurs on social investors. However, the actual social investment experience may depend on certain regional characteristics (for example, whether there are social entrepreneurs to invest in). Then, spatial analytics were introduced to improve the model's accuracy; furthermore, the results showed that actual social entrepreneurs in some areas were more likely to have experience in social investment, while potential social entrepreneurs are highly associated with social investors in areas without large cities. These findings assist in vitalizing entrepreneurial ecosystems where entrepreneurs are linked with social investors.

研究分野：社会システム

キーワード：ソーシャルビジネス 社会起業家 エコシステム SDGs インパクト評価

1. 研究開始当初の背景

ソーシャル・ビジネス (SB: Social Business) という概念の提唱者でもあるノーベル平和賞受賞者のユヌス氏によると、ソーシャル・ビジネスでは、その達成すべき目標として、飢饉、ホームレス、病気、公害、教育不足など、社会・経済・環境の諸問題の解決が挙げられる。そして、その目的を確実に達成するため、従来の会社・ビジネスにはない幾つかの特徴を持たせる必要があることが強調されている (Yunus et al. 2010)。その最も大きな特徴の一つとして、企業の所有者 (株主ないし出資者) に対して配当金の支払いを行うとは限らないということが挙げられる。これは、ソーシャル・ビジネスの活動に伴う利益は、その将来の活動のために使う必要があるという考え方に基づくものである (Yunus 2010)。このような理論的背景ゆえ、従来におけるソーシャル・ビジネスに関する研究は、その実践事例や解決すべき社会課題に焦点が当てられることが多かった。SB において、その実践者と支援者の関係、つまり、誰が (個人か組織か) どの分野の SB を実践 (支援) しているか、また、実践 (支援) したいと思っているのか、その時の資金調達 (提供) はどのように行っているのかなど、地域や社会全体における実践者や支援者との有機的なつながりをエコシステム (Ecosystem) (生態系) として捉えるソーシャル・ビジネス・エコシステム (SBE: Social Business Ecosystem) としての分析は必ずしも十分ではない (Bergman, 2017; Murray, 2014; Roundy, 2017; Roundy et al., 2017; Thompson et al., 2018)。そもそも、現行の社会経済制度は、必ずしも SBE を前提にしておらず、SBE における実践者および支援者そのものの数が少ない。したがって、どのくらいの人かどの分野の社会課題に関心を持ち、認識しているか、潜在的な実践者および支援者はどのくらい存在するかといった潜在性に関する分析および SBE が機能するために必要な施策や仕組みづくりについて検討することが必要不可欠である。

2. 研究の目的

上記の研究背景のもと、本研究は、SB に着目し、これまでその社会的意義や先進的な実践など定性的な事例研究が主として進んでいた同分野において、地域や社会全体における実践者や支援者との有機的なつながりである SBE の潜在性を定量的に明らかにし、SBE が機能するために必要な施策や仕組みづくりについて検討することを目的とした。具体的には次の3つの目的を設定した。

【目的1】SDGs の目標に対応した SB における社会課題と SB 評価指標の再定義

【目的2】SBE における実践者と支援者との関係およびその潜在性の分析

【目的3】持続可能な社会に向けた SBE 形成のための施策の検討

3. 研究の方法

【目的1】を達成するため、まず、既存研究および指標について網羅的にレビュー・整理した。その際、既存の多様な事業評価指標との関係性についても明示し、SB の評価指標が、SDGs の目標指標のみならず、既存の多様な評価指標とどのように対応するか、または、対応させるための理論を提示した。その後、SB の現況を把握するため、既存の国際調査 (GEM 調査) で明らかにされている、SB が盛んでない国 (例えば、日本) で現地調査を実施し、【目的2】を達成するために、個人を対象とした詳細なアンケート調査を実施した。初年度は、そのためのアンケート調査項目を作成した。その際、対象地での十分なサンプルを有する業者へ業務委託した。調査項目では、具体的に、SDGs の16の目標への関心度や認知度、SB の従事経験の有無、関心の有無、支援の有無、年齢、学歴、所得、職歴などの個人属性、さらには、生活満足度などの主観的評価を尋ねた。

また、2、3年目は、初年度および2年目で実施した調査の結果を基に、対象サンプルとなる個人を、SB 実施者・支援者、さらにはそれらの潜在的 SB 実施者・支援者 (潜在者) に類型化 (カテゴリーデータ化) した。そして、前述した類型別の属性や個人属性のみならず、SDGs の16の目標に関連する変数などを入れて、ロジット分析を実施し、SB 実施者・支援者 (もしくは潜在者) を規定する要因 (変数) を明らかにした。

最後に、3年目では、【目的3】を達成するために、上記の分析を基に、持続可能な社会に向けた SBE 形成のための施策を検討すると同時に、その理論的研究も実施した。

4. 研究成果

本研究の成果について、初年度にアンケート調査を実施し、その結果を分析した。まず、対象サンプルとなる個人を、ソーシャルビジネス（SB）実施者・支援者、さらにはそれらのSB実施者・支援者（潜在者）に類型化した（図1参照）。

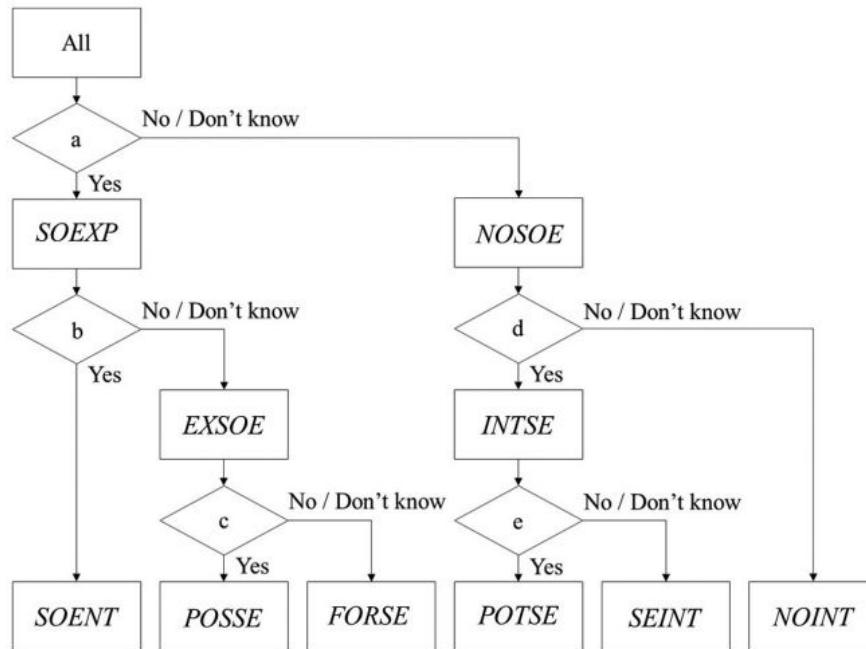


Figure 1. Categorising respondents by social entrepreneur type. (a) Social entrepreneurial experience; (b) currently involved in social entrepreneurial activity; (c) intending to start another social entrepreneurial activity; (d) interest in social entrepreneurship; and (e) intention to start a social entrepreneurial activity by themselves.

図1 SB実施者・支援者（潜在者）の類型化

研究業績（Nakamura, (2022): Characteristics and Relationships of Social Entrepreneurs and Social Investors in Japan, Journal of Social Entrepreneurship）より
抜粋

さらに、SDGsに関連する変数や、ユネス・ソーシャル・ビジネスへの理解度に関する変数などを入れてSB支援者（もしくは潜在者）を規定する要因（変数）を、日本における地域的特性も考慮に入れたうえで明らかにした（図2参照）。例えば、SB実施経験者が、SB支援者になる傾向にあり、そのためには、地域的なSBEとしてのつながりが重要であることなどが示唆された。上記の主たる研究成果については、論文を執筆し、国際ジャーナルに投稿、掲載された（研究実績一覧参照）。

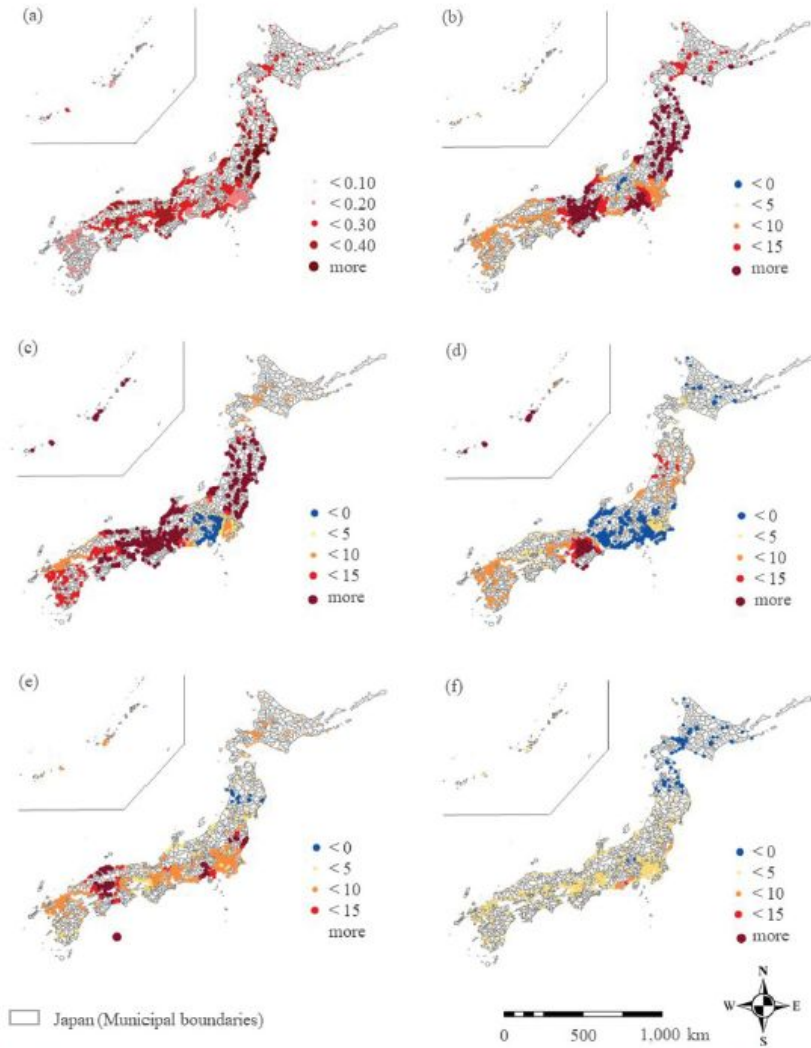


Figure 5. Maps with results of the geographically weighted regression. (a) Local R^2 values; (b–f) Estimated odds ratio values of the dependent variables related to *SOENT*, *POSSE*, *FORSE*, *POTSE*, and *SEINT*, respectively.

図2 SB支援者（もしくは潜在者）を規定する要因（変数）に関する分析結果
研究業績（Nakamura, (2022): Characteristics and Relationships of Social
Entrepreneurs and Social Investors in Japan, Journal of Social Entrepreneurship）よ
り抜粋

加えて、潜在的SB実施者や支援者に対する詳細なヒアリング・インタビュー調査をオンラインで実施した。また、それらの知見をもとに、いかにSB支援者と実施者を有機的に結びつけるか、そのためにはどのような仕組みづくりや評価の在り方が必要か（ソーシャル・ビジネス・エコシステムの構築およびインパクト評価の評価指標）について、理論的・実践的検討を行い、それについても論文化した。具体的には、SBが盛んでない日本においては、SB無関心層が多く、その層に働きかけるソーシャルネットワークシステム（SNS）など情報通信技術を活用することの有効性を示した。また、SBEに関しては、潜在的SB層に対して、SB実施者及び実施経験者の伴走支援が可能である、中規模レベルのコミュニティをSBEとして機能させることの有効性が示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 13件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hiroki Nakamura	4. 巻 2022 Jun 27
2. 論文標題 Characteristics and relationships of social entrepreneurs and social investors in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Social Entrepreneurship	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/19420676.2022.2090417	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Susumu Cato, Hiroki Nakamura	4. 巻 14(15), 9325
2. 論文標題 Understanding the function of a social business ecosystem	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su14159325	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hiroki Nakamura	4. 巻 14(24), 16860
2. 論文標題 Role and Potential of Comedians/Entertainers as Social Entrepreneurs Who Activate Local Communities” Sustainability	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su142416860	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yuji Honjo, Kenta Ikeuchi, and Hiroki Nakamura	4. 巻 17
2. 論文標題 The Mediating Effect of Financial Motives in the Association between Entrepreneurial Experience and Subjective Well-Being: Evidence from Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Applied Research in Quality of Life	6. 最初と最後の頁 1043-1067
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11482-021-09947-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jun Igeta, Hiroki Nakamura	4. 巻 14
2. 論文標題 Business incentive to reduce food losses in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 2266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su14042266	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mihoko Wakamatsu, Hiroki Nakamura, Shunsuke Managi	4. 巻 135
2. 論文標題 The value of whaling and its spatial heterogeneity in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Marine Policy	6. 最初と最後の頁 104852
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.marpol.2021.104852	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Hiroki	4. 巻 71
2. 論文標題 Evaluating the value of an entrepreneurial city with a spatial hedonic approach: A case study of London	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Socio-Economic Planning Sciences	6. 最初と最後の頁 100820 ~ 100820
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.seps.2020.100820	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Honjo Yuji, Nakamura Hiroki	4. 巻 54
2. 論文標題 The link between entrepreneurship and informal investment: An international comparison	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 101012 ~ 101012
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.japwor.2020.101012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Hiroki、Managi Shunsuke	4. 巻 67
2. 論文標題 Entrepreneurship and marginal cost of CO2 emissions in economic development	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Economic Analysis and Policy	6. 最初と最後の頁 1~14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.eap.2020.05.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Hiroki、Abe Naoya、Mizunoya Takeshi	4. 巻 278
2. 論文標題 Factors inhibiting the use of sharing economy services in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Cleaner Production	6. 最初と最後の頁 123981 ~ 123981
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jclepro.2020.123981	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Hiroki、Managi Shunsuke	4. 巻 19
2. 論文標題 Why does perceive safety endure in crime hotspots? Case of Delhi	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Safer Communities	6. 最初と最後の頁 183 ~ 198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/SC-02-2020-0006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nakamura	4. 巻 217
2. 論文標題 Relationship among land price, entrepreneurship, the environment, economics, and social factors in the value assessment of Japanese cities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Cleaner Production	6. 最初と最後の頁 144-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Honjo and Hiroki Nakamura	4. 巻 19-E-017
2. 論文標題 The Link between Entrepreneurial Activities and Angel Investment: An international comparison	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nakamura, Yuji Honjo, and Kenta Ikeuchi	4. 巻 19-E-083
2. 論文標題 Potentiality and actuality: Characteristics and linkage of entrepreneurs and angel investors in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroki Nakamura and Shunsuke Managi	4. 巻 256
2. 論文標題 Effects of subjective and objective city evaluation on life satisfaction in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Cleaner Production	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Hiroki Nakamura
2. 発表標題 Role of a social business ecosystem
3. 学会等名 No Going Back: Role of Academia in Enabling Microentrepreneurs, Social Business Asia Pacific Academia Forum 1st July 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroki Nakamura and Naoya Abe
2. 発表標題 Actual and potential social entrepreneurs in Japan: Building social entrepreneurial ecosystem
3. 学会等名 Social Business Academia Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 M. Lackner et al. (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer Science+Business Media, LLC, part of Springer Nature	5. 総ページ数 2130
3. 書名 Handbook of Climate Change Mitigation and Adaptation	

1. 著者名 馬奈木俊介・中村寛樹・松永千晶	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 272
3. 書名 持続可能なまちづくり - データで見る豊かさ	

1. 著者名 中村寛樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 260
3. 書名 はじめてのアントレプレナーシップ論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------